



Video Administration for Cisco Unified MeetingPlace の設定および管理

この章の手順は、Cisco Unified MeetingPlace Video Integration ソフトウェアを Web Conferencing サーバにインストールする前に完了しておく必要があります。この章は、後で設定を追加および変更する場合の参照資料としても使用できます。

この章は、次の項から構成されています。

- [設定する前に \(P.4-2\)](#)
- [ネットワーク管理 \(P.4-4\)](#)
- [リソース管理 \(P.4-9\)](#)
- [会議の種類 \(P.4-23\)](#)

設定する前に

この項では、Video Administration の起動と再起動およびユーザタイプに基づいたログインについて説明します。内容は次のとおりです。

- Video Administration の設定のワークフロー (P.4-2)
- Video Administration の起動 (P.4-2)
- Video Administration の再起動 (P.4-2)
- ログイン (P.4-3)

Video Administration の設定のワークフロー

Video Administration 管理者は次のワークフローに従って Video Administration を設定することをお勧めします。

- インストール
- 初期ログイン
- IP デバイスの設定
 - IP トポロジ
 - ISDN トポロジ
- リソースの設定
 - ゲートキーパーまたは SIP サーバ
 - MCU
 - ゲートウェイ
 - 端末
- 会議の種類の設定
 - 会議の種類のダウンロードまたはアップロード

デフォルトでは、設定ツールでの設定に応じてユーザインターフェイスの一部のセクションは非表示になっていますが、マニュアルでは、それらのセクションが表示されている場合があります。

Video Administration の起動

Video Administration は、Windows サービスの 1 つとしてサーバにインストールされます。Video Administration は、サーバが起動すると自動的に起動します。

Video Administration の再起動

Video Administration を再起動するには、サーバまたは Video Administration サービスのどちらかを再起動する必要があります。

Video Administration サービスを再起動する

- ステップ 1** [Start] メニューから、[Settings] > [Control Panel] > [Administrative Tools] > [Services] をクリックします。
- ステップ 2** サーバで現在実行されているサービスのリストから [Video Administration for Cisco Unified MeetingPlace] サービスを選択します。



(注) Video Administration の再起動時には、Video Administration が適切に初期化され、Web ページをロードできるようになるまでに数分かかることがあります。

ログイン

インストールが完了すると、ロールに応じてログインできます。

Video Administration にログインする

- ステップ 1** ユーザセットアップ通知の電子メールで示された場所にアクセスします。
- ステップ 2** 表示されたログイン画面で必要な情報を入力し、**[Login]** をクリックします。
- ステップ 3** 初めてログインする場合は、**[User Provisioning]** 画面が表示されます。次のオプションのいずれかが自動的に選択されています。この選択内容は変更しないでください。
 - **[Via Video Administration for Cisco Unified MeetingPlace—To use the internal Video Administration database]**
 - **[Via external server only]**
- ステップ 4** **[OK]** をクリックします。

ネットワーク管理

この項は、組織管理者を対象としています。

[Network Management] セクションでは、IP リソースおよび ISDN リソースのトポロジをマッピングできます。



(注) デフォルトでは、[Network Management] セクションは Video Administration に表示されません。

[Network Management] セクションにアクセスする

ステップ 1 サイドバーメニューで、[Network Management] を選択します。

ステップ 2 [Network Management] セクションには、次のタブがあります。

- [IP Topology] : P.4-4 の「[IP Topology タブの使用](#)」を参照してください。
- [ISDN Topology] : P.4-6 の「[ISDN Topology タブの使用](#)」を参照してください。



(注) これらのタブは、表示されている順序に従って設定することをお勧めします。

IP Topology タブの使用

[IP Topology] タブには、ビデオ会議ネットワーク内のすべてのデバイスアイランドの距離と帯域幅の情報が表示されます。

次のパラメータが [IP Topology] テーブルに表示されます。

- [Distance] : 指定したデバイスアイランド間の距離。組織 LAN 上に設定された他のすべてのデバイスアイランドとの相対距離です。この設定は、使用可能な最適なリソースを検出して割り当てるために使用されます。[Distance] 値は、2 つのデバイスアイランド間の相対的なネットワーク遅延を示す加重係数です。距離が大きいくほど、2 つのデバイスアイランド間のネットワークによってもたらされるラウンドトリップ遅延は大きくなります。距離は、ネットワーク遅延に比例する属性です。遅延をモデル化する論理的な方法の 1 つは、2 つの LAN 間の接続に対して「ping」し、平均遅延結果を使用することです。
- [Bandwidth] : 指定したデバイスアイランド間の帯域幅接続 (Kbps 単位)。この設定は、リソース割り当て時の帯域幅制御で使用されます。[Bandwidth] フィールドは、ビデオ会議に使用できる 2 つのデバイスアイランド間の接続帯域幅 (Kbps 単位) を表します。これは、帯域幅の最も狭い部分 (通常は、LAN からの発信接続のいずれか) によって定義されます。

次の手順を参照してください。

- [\[IP Topology\] タブにアクセスする \(P.4-5\)](#)
- [デバイスアイランドを表示する \(P.4-5\)](#)
- [デバイスアイランドに接続する \(P.4-5\)](#)
- [デバイスアイランドを追加する \(P.4-5\)](#)
- [デバイスアイランドを修正する \(P.4-6\)](#)
- [デバイスアイランドを削除する \(P.4-6\)](#)

[IP Topology] タブにアクセスする

ステップ 1 サイドバーメニューで、[Network Management] を選択します。

[IP Topology] タブはデフォルトで表示されます。

デバイス アイランドを表示する

ステップ 1 [Display Location] をクリックします。



(注) デフォルトでは、[IP Topology] 画面を初めて表示すると、最初の 8 つのデバイス アイランドが表示されます。

ステップ 2 表示された画面で、[IP Topology] タブのグリッド表示に含める IP 位置を選択します。最大 8 つの位置を表示できます。

ステップ 3 [Search] をクリックします。

選択したデバイス アイランドがグリッド表示に表示されます。

デバイス アイランドに接続する

ステップ 1 デバイス アイランド間のセルの [Distance] フィールドおよび [Bandwidth] フィールドに情報が表示されていることを確認します。

ステップ 2 2 つのデバイス アイランド間の接続を削除するには、[Distance] および [Bandwidth] の値を削除します。

2 つのデバイス アイランド間の同じ接続設定を表示するセルが 2 つ存在する場合があるため、一方のセルの値を変更した場合は、もう一方のセルにも同じ新しい値が表示されます。

デバイス アイランドを追加する

ステップ 1 [IP Topology] タブで、[Add] をクリックします。

空の行が表示され、すべての既存のデバイス アイランドが列として表示されます。また、タブの下部にある [Add] ボタンは [OK] ボタンと [Cancel] ボタンに置き換わります。

ステップ 2 各列の [Distance] フィールドおよび [Bandwidth] フィールドに、新しいデバイス アイランドの情報を入力します。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

デバイス アイランドが IP トポロジに追加されます。

デバイス アイランドを修正する

デバイス アイランドのパラメータを変更できます。

-
- ステップ 1** [IP Topology] タブで、修正するデバイス アイランドを検索します。詳細については、[P.4-5 の手順「デバイス アイランドを表示する」](#)を参照してください。
- ステップ 2** 修正するデバイス アイランドごとに、必要に応じて [Distance] フィールドまたは [Bandwidth] フィールドを編集します。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
-

デバイス アイランドを削除する

トポロジ内の不要になったデバイス アイランドを削除できます。一度削除したデバイス アイランドを回復することはできません。

-
- ステップ 1** [IP Topology] タブで、削除するデバイス アイランドを検索します。詳細については、[P.4-5 の手順「デバイス アイランドを表示する」](#)を参照してください。
- ステップ 2** 削除するデバイス アイランドの上にある [X] マークをクリックします。
- ステップ 3** 削除するデバイス アイランドに現在割り当てられているデバイスがある場合は、表示された [Reassign Device Island] 画面で、デバイスの再割り当て先のデバイス アイランドを選択し、[Reassign] をクリックします。
-

ISDN Topology タブの使用

[ISDN Topology] タブには、ISDN ネットワーク内のすべてのデバイス アイランドの接続と距離の情報が表示されます。次のパラメータが [ISDN Topology] テーブルに表示されます。

- [Cost]: 指定したデバイス アイランド間の ISDN コールのコスト。組織の ISDN ネットワーク上に設定された他のすべてのデバイス アイランドとの相対コストになります。この設定は、使用可能な最適なリソースを検出して割り当てるために使用されます。

次の手順を参照してください。

- [\[ISDN Topology\] タブにアクセスする \(P.4-7\)](#)
- [デバイス アイランドを表示する \(P.4-7\)](#)
- [デバイス アイランドに接続する \(P.4-7\)](#)
- [デバイス アイランドを追加する \(P.4-7\)](#)
- [デバイス アイランドを修正する \(P.4-8\)](#)
- [デバイス アイランドを削除する \(P.4-8\)](#)

[ISDN Topology] タブにアクセスする

- ステップ 1** サイドバーメニューで、[Network Management] を選択します。
- ステップ 2** [Network Management] セクションで、[ISDN Topology] タブを選択します。

デバイス アイランドを表示する

- ステップ 1** [Display Location] をクリックします。



(注) デフォルトでは、[ISDN Topology] 画面を初めて表示すると、最初の 8 つのデバイス アイランドが表示されます。

- ステップ 2** 開いた画面で、[ISDN Topology] タブのグリッド表示に含める IP 位置を選択します。最大 8 つの位置を表示できます。
- ステップ 3** [Search] をクリックします。

選択したデバイス アイランドがグリッド表示に表示されます。

デバイス アイランドに接続する

- ステップ 1** デバイスの [Cost] フィールドに情報が表示されていることを確認します。
- ステップ 2** 2 つのデバイス アイランド間の接続を削除するには、[Cost] の値を削除します。

2 つのデバイス アイランド間の同じ接続設定を表示するセルが 2 つ存在する必要があるため、一方のセルの値を変更した場合は、もう一方のセルにも同じ新しい値が表示されます。

デバイス アイランドを追加する

- ステップ 1** [ISDN Topology] タブで、[Add] をクリックします。

空の行が表示され、すべての既存のデバイス アイランドが列として表示されます。また、タブの下部にある [Add] ボタンは [OK] ボタンと [Cancel] ボタンに置き換わります。

- ステップ 2** 各列の [Cost] フィールドに、新しいデバイス アイランドの情報を入力します。

- ステップ 3** [OK] をクリックします。

デバイス アイランドが ISDN トポロジに追加されます。

デバイス アイランドを修正する

- ステップ 1** [ISDN Topology] タブで、修正するデバイス アイランドを検索します。詳細については、[P.4-7 の手順「デバイス アイランドを表示する」](#)を参照してください。
- ステップ 2** 修正するデバイス アイランドごとに、必要に応じて [Cost] フィールドを編集します。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
-

デバイス アイランドを削除する

トポロジ内の不要になったデバイス アイランドを削除できます。一度削除したデバイス アイランドを回復することはできません。

- ステップ 1** [ISDN Topology] タブで、削除するデバイス アイランドを検索します。詳細については、[P.4-7 の手順「デバイス アイランドを表示する」](#)を参照してください。
- ステップ 2** 削除するデバイス アイランドの上にある [X] マークをクリックします。
- ステップ 3** 削除するデバイス アイランドに現在割り当てられているデバイスがある場合は、表示された [Reassign Device Island] 画面で、デバイスの再割り当て先のデバイス アイランドを選択し、[Reassign] をクリックします。
-

リソース管理

この項は、組織管理者を対象としています。[Resource Management] セクションでは、リソースを編成、割り当て、および監視できます。

現時点では、次のリソースが Video Administration によってサポートされています。

- MCU
 - Cisco MCU バージョン 4.x および 5.x
 - Cisco Unified Videoconferencing 35xx および 36xx
- ゲートキーパーおよび SIP サーバ
 - Cisco GK バージョン 4.x
 - Cisco MCM バージョン 2.0
 - Microsoft LCS

[Resource Management] セクションにアクセスする

ステップ 1 サイドバーメニューで、[Resource Management] を選択します。

ステップ 2 [Resource Management] セクションには、次のタブがあります。

- [Gatekeeper/SIP server] : P.4-9 の「Gatekeeper/SIP server タブの使用」を参照してください。
- [MCU] : P.4-13 の「MCU タブの使用」を参照してください。
- [Gateway] : P.4-17 の「Gateway タブの使用」を参照してください。
- [Terminals] : P.4-20 の「Terminals タブの使用」を参照してください。



[注] これらのタブは、表示されている順序（左から右）に従って設定することをお勧めします。

Gatekeeper/SIP server タブの使用

[Gatekeeper/SIP server] タブでは、ゲートキーパーおよび SIP サーバの情報を監視、追加、削除、および修正できます。

ゲートキーパーまたは SIP は、MCU をレジストリに追加する前に [Gatekeeper/SIP server] タブにリストされている必要があります。

Cisco GK は [Gatekeeper/SIP server] タブにリストされています。これは内部ゲートキーパーです。

次の手順を参照してください。

- [Gatekeeper/SIP server] タブにアクセスする (P.4-10)
- ゲートキーパーまたは SIP サーバを追加する (P.4-10)
- ゲートキーパーまたは SIP サーバの定義を修正する (P.4-12)
- ゲートキーパーまたは SIP サーバを削除する (P.4-12)
- ゲートキーパーまたは SIP サーバを検索する (P.4-13)

[Gatekeeper/SIP server] タブにアクセスする

- ステップ 1** サイドバーメニューで、**[Resource Management]** を選択します。
- ステップ 2** **[Resource Management]** セクションで、**[Gatekeeper/SIP Server]** タブを選択します。

ゲートキーパーまたは SIP サーバを追加する

ゲートキーパーまたは SIP サーバを追加する手順は、選択したモデルによって若干異なります。

ゲートキーパーを追加した場合、そのゲートキーパーは自動的に内部ゲートキーパーのネイバーとして定義されます。

- ステップ 1** **[Gatekeeper/SIP server]** タブで、**[Add]** をクリックします。
- [New Gatekeeper/SIP server]** 画面が表示されます。
- ステップ 2** **[Name]** フィールドに、ゲートキーパーまたは SIP サーバの名前を入力します。
- ステップ 3** **[IP Address]** フィールドに、ゲートキーパーまたは SIP サーバの IP アドレスを入力します。
- ステップ 4** **[Model]** リストから、追加するサーバのタイプを選択します。

選択したサーバに関するオプションが画面に表示されます。たとえば、**[Protocol]** リスト、**[Dialing Plan Information]**、および **[Advanced]** セクションの表示は、選択したサーバによって異なります。

- **[Cisco Video Administration Internal Gatekeeper or Cisco MCM 500]**: **[Protocol]** リストに H.323 プロトコルが自動的に表示されます。



(注) Video Administration で SIP サーバを設定する前に、Cisco MCU に必要な SIP サーバの詳細を SIP セクションの **[Protocols]** タブで正しく設定したことを確認してください。

- **[Microsoft LCS]**: **[Protocol]** リストに SIP が自動的に表示されます。**[SIP Domain]** フィールドにサーバドメインを入力します。
- **[Other Model]**: **[Protocol]** リストからサーバを選択します。サーバが SIP サーバの場合は、**[SIP Domain]** フィールドにサーバドメインを入力します。

- ステップ 5** **[Location]** リストで、デバイスの所属先となるデバイス アイランドを設定します。
- ステップ 6** **[Dialing Plan Information]** セクションで、次のオプションのいずれかまたは両方を選択します。

- **[Hierarchical]**: ダイアルプランで、ゲートキーパーがネイバーとフラットなピア関係ではなく、親子関係である場合は、このオプションを選択します。
- **[Stripping]**: ゾーンプレフィックスを削除するように設定されたゲートキーパーの場合は、このオプションを選択します。

[Hierarchical] を選択した場合は、**[Parent Gatekeeper]** リストがアクティブになります。ゲートキーパーの親ゾーンを選択します。このゲートキーパーが階層の最上位の親である場合、リストで自動的に選択されている値はありません。

ルート ゲートキーパーの場合は、[Hierarchical] を選択しないでください。階層ツリー構造のルート ゲートキーパーは親を持ちませんが、ピア ネイバーを持つ場合があります。



(注) [Model] リストで Microsoft LCS が選択されている場合、[Dialing Plan Information] セクションは表示されません。



(注) マルチゲートキーパー ダイアルプランは、シスコのゲートキーパーの場合のみサポートされます。

ステップ 7 [Add Zone Prefix] をクリックして、ゲートキーパーまたは SIP サーバに設定されている各プレフィックスのゾーンプレフィックスを選択します。

[Delete Zone Prefix] ボタン、[Prefix] チェックボックス、および [Prefix] フィールドが表示されます。

ステップ 8 [Prefix] チェックボックスをオンにして、[Prefix] フィールドに番号を入力します。



(注) オンにした場合は、登録済みエンドポイントの E.164 番号および MCU またはゲートウェイのサービスプレフィックスの最初の数字をゲートキーパープレフィックスと同じ数字にしないでください。

ステップ 9 シスコのゲートキーパー (ECS) を使用しており、権限付与オプションおよびポイントツーポイント機能を設定する場合は、[Advanced] セクションで、[Enable ECS Advanced Features (Authorization and Point-to-Point)] チェックボックスをオンにします。このオプションをオンにすると、Video Administration は拡張 ECS Third Party Call Control API を使用して、2 つのエンドポイントだけを持つ会議を MCU リソースを使用することなくゲートキーパーから直接作成します。Video Administration はシスコのゲートキーパーと通信して、システム内のすべてのポイントツーポイント コールを監視し、それらに権限を付与します。

ステップ 10 [Configure] をクリックします。

権限付与に関する画面が開き、[Authorization Login] フィールド、[Authorization Password] フィールド、および [Authorization Port] フィールドに情報が表示されます。

ステップ 11 [OK] をクリックします。詳細については、P.4-11 の「ゲートキーパーまたは SIP サーバを追加するときの注意点」を参照してください。

ゲートキーパーまたは SIP サーバを追加するときの注意点

次の点に注意してください。

- ゲートウェイが Direct Inward Dialing (DID; ダイヤルイン) をサポートできるようにし、さらに、Video Administration がゲートキーパーと通信して、エンドポイントが開始したコール用のリソースを監視、許可、および割り当てできるようにするためには、権限付与を実行する必要があります。権限モードでは、Video Administration で定義済みの端末だけがコールを開始できます。定義済みの端末が、未定義の端末へのコールを開始した場合、Video Administration は未定義の端末を外部エンドポイントとして扱います。

- 権限付与は、仮想会議 ID 機能およびダイナミック カスケード機能を有効にするために必要です。
- エンドポイントが開始したコールのスケジュールされた終了時刻の 30 分以内に参加エンドポイントのいずれかが別の会議に招待された場合には、Video Administration はエンドポイントが開始したコールの延長を許可しません。
- [Duration of Endpoint Initiated Calls] フィールドのデフォルト設定は 30 分です。これは、Video Administration 設定ツールで変更できます。
- [Port] フィールド、[SNMP Get Community] フィールド、および [Get SNMP Get Community] フィールドには、デフォルト値が自動的に表示されます。実際のデバイスの値が異なる場合は、それに応じて設定してください。
- ゲートキーパーを追加した場合、そのゲートキーパーは自動的に内部ゲートキーパーのネイバーとして指定されます。

ゲートキーパーまたは SIP サーバの定義を修正する

-
- ステップ 1** [Gatekeeper/SIP server] タブで、修正するサーバの名前をクリックします。
- ステップ 2** [Modify Gatekeeper/SIP server] 画面で、必要に応じて詳細を編集します。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
-

ゲートキーパーまたは SIP サーバを削除する

一度削除したゲートキーパーまたは SIP サーバを回復することはできません。

-
- ステップ 1** [Gatekeeper/SIP server] タブで、削除するサーバの名前をクリックします。
- ステップ 2** [Modify Gatekeeper/SIP server] 画面で、[Delete] をクリックします。
- ステップ 3** ゲートウェイ プール内の他のゲートウェイの IP アドレスを削除する場合は、[IP Address] フィールドの隣にある [Modify] ボタンをクリックし、[Modify Gateway] 画面で [Delete] をクリックします。

ゲートキーパーまたは SIP サーバの現在の使用状況に応じて、次のイベントが発生します。

- 2 時間以内に、このゲートキーパーまたは SIP サーバを使用するスケジュールされた会議がある場合は、Video Administration は削除を許可しません。
- ゲートキーパーまたは SIP サーバに子としてマッピングされている他のゲートウェイがある場合、Video Administration は、それらの子をルート ゲートキーパーまたはルート SIP サーバとして使用し、それらに従ってダイヤルすることで、ゲートウェイ ダイヤル プランを再設定します。
- 削除するゲートキーパーまたは SIP サーバに登録されているデバイスがある場合は、削除後、それらのデバイスはどのゲートキーパーまたは SIP サーバにも登録されていないものとして表示されます。



(注) 必要な場合は、ゲートキーパーまたは SIP サーバが削除された後に手動で再設定してください。

ゲートキーパーまたは SIP サーバを検索する

ゲートキーパーまたは SIP サーバを名前で検索できます。

ステップ 1 [Name] フィールドに、検索するゲートキーパーまたは SIP サーバの名前全体または名前の一部を入力します。

ステップ 2 [Search] をクリックします。

見つかった場合、そのゲートキーパーまたは SIP サーバがリストに表示されます。

ステップ 3 ゲートキーパーまたは SIP サーバの完全なリストを表示するには、[Search] フィールドをクリアし、[Search] をクリックします。

検索結果のリストでは、接続ステータスに関する次の情報を参照できます。

- [Authorization Connection]: 内部ゲートキーパーと Video Administration 間の権限付与リンクが確立されているかどうかを示します。この接続は、必要があるときだけ確立されます。そのため、接続が解除されているように見えることがありますが、エラーではありません。
- [Call Control Connection]: 内部ゲートキーパーと API 間の接続が Video Administration によって確立されているかどうかを示します。
- [SNMP Connection]: Video Administration と内部ゲートキーパー間の SNMP 接続が確立されているかどうかを示します。

MCU タブの使用

[MCU] タブでは、MCU を監視、追加、削除、および修正できます。

次の手順を参照してください。

- [会議のカスケードの優先順位を選択する \(P.4-13\)](#)
- [MCU を追加する \(P.4-14\)](#)
- [MCU を修正する \(P.4-15\)](#)
- [MCU を削除する \(P.4-16\)](#)
- [MCU を検索する \(P.4-17\)](#)

会議のカスケードの優先順位を選択する

MCU のカスケードは、ネットワーク リソースの潜在的な浪費を低減し、MCU の使用効率を向上するために使用されます。カスケードについては、次の点に注意する必要があります。

- 必要な会議を表すサービスは、すべての参加 MCU で使用可能である必要があります。
- Video Administration の会議制御機能は、手動でカスケードした会議では正しく機能しない場合があります。
- クラスタ化された MCU (1 つの MCU 上の複数の MP ユニット) は使用しないことをお勧めします。クラスタ化された MCU 構成には、過負荷を制御するためのロード バランシング機能がないため、シングル ポイント障害が発生する場合があります。詳細については、シスコのカスタマー サポートにお問い合わせください。
- 各マスター MCU は、スレーブ MCU ごとに 1 つのポートを使用します。
- カスケードした会議で使用するスレーブ MCU ごとに 1 つずつ追加ポートが必要です。

- Video Administration は、Video Administration ユーザ インターフェイスでいくつかの場所に表示される [Prioritize] フィールドを介して会議のカスケードをサポートします。カスケードは、管理者が選択した優先順位に従って行われます。



(注)

デフォルトでは、[Advanced Settings] ページは Video Administration に表示されません。設定は、Video Administration 設定ツールを使用して行います。

ステップ 1 サイドバー メニューで、[Advanced Settings] をクリックします。

ステップ 2 [Default Meeting Settings] タブの [Prioritize] フィールドで、次のオプションのいずれかを選択します。

- [Bandwidth] : Video Administration は、帯域幅を節約するためにリソースを割り当てます。たとえば、2 人のユーザと 1 つの MCU を持つサイトで、Video Administration はローカルの会議を作成します。場合によっては、会議を主催するために使用可能な MCU が 1 つしかなくても、帯域幅を節約するために会議がカスケードされることがあります。
- [Delay] : Video Administration は、最適なビデオ品質を確保するためにリソースを割り当てます。Video Administration は、ユーザの場所にかかわらず、すべてのユーザをメイン MCU に直接招待します。[Delay] は帯域幅に関してコストが高くなることがあるため、[Delay] オプションを選択するときは、事前にトポロジを考慮することをお勧めします。
- [Local MCU] : Video Administration が 2 つ以上の MCU を持ち、2 人以上の会議参加者がいる場合は、このオプションを選択します。Video Administration は、([IP Topology] の設定に従って) すべての参加端末をそれぞれのローカル MCU で主催される会議に招待してから、それらの会議をカスケードして単一の会議を形成します。

ステップ 3 [OK] をクリックします。



(注)

[User] > [Meeting Templates] > [Advanced] を選択するか、または [User] > [Meeting Scheduling] > [Advanced] を選択することで、[Prioritize] フィールドにアクセスできます。デフォルトでは、これらのセクションは Video Administration に表示されません。設定は、Video Administration 設定ツールを使用して行います。

MCU を追加する

ステップ 1 [MCU] タブで、[Add] をクリックします。

[New MCU] 画面が [Basic] タブ上に開きます。

ステップ 2 [Model] リストから MCU のモデルを選択します。

ステップ 3 MCU をゲートキーパーに登録する場合は、[Registered To] リストから選択します。

ステップ 4 MCU を SIP サーバに登録する場合は、[SIP Only] チェックボックスをオンにします。



(注) MCU が H.323 ゲートキーパーではなく SIP サーバに登録されたことを確認してください。[SIP Only] チェックボックスをオンにすると、[Registered To] フィールドは非アクティブになります。

ステップ 5 [Location] リストから、MCU の所属先となるデバイス アイランドを選択します。

ステップ 6 Video Administration が MCU との通信に使用する特定のポートを指定する場合、または SNMP コミュニティ パスワード (情報を取得および送信するためのパスワード) を指定する場合は、[Advanced] タブをクリックし、フィールドのデフォルト エントリを編集します。



(注) [Advanced] タブは、特定の MCU モデルの場合に限りアクティブになります。また、このタブのフィールドは、MCU モデルに応じて異なります。

ステップ 7 [Basic] タブまたは [Advanced] タブのいずれかで、[OK] をクリックします。

新しい MCU が [MCU] タブのリストに表示されます。



(注) Video Administration と MCU が異なるネットワークにある場合は、セキュリティ ポリシーによって、Video Administration と MCU 間の SNMP 接続および XML API 接続を許可する必要があります。



(注) Video Administration は、新しく設定された MCU に接続できません。MCU が追加されても、そのステータスはオフラインです。この場合、[Modify MCU] 画面で [Online] オプションを選択し、[OK] をクリックします。MCU の修正方法の詳細については、[P.4-15 の手順「MCU を修正する」](#)を参照してください。

MCU を修正する

MCU 情報は、[Basic] タブおよび [Advanced] タブで修正できます。

指定したゲートキーパーまたは SIP サーバがプレフィクスを削除する設定になっている場合、MCU サービス プレフィクスの最初の数字をゲートキーパーまた SIP サーバのプレフィクスと同じにすることはできません。

ステップ 1 [MCU] タブで、リストにある MCU の名前をクリックします。

[Modify MCU] 画面が表示されます。

ステップ 2 [Basic] タブで、必要に応じて詳細を編集します。

ステップ 3 [Basic] タブの [Advanced] セクションで、次のオプションから選択します。

- [Online] : すべての MCU のデフォルトの設定。
- [Offline Up to Date] : MCU が再びオンラインになる日付を設定するには、カレンダーのボタンをクリックし、日付を選択します。Video Administration は MCU を自動的にオンラインにしないため、指定した日に管理者が手動で MCU をオンラインにする必要があります。

ステップ 4 MCU に永続的に [Offline] オプションを設定する場合は、[Permanently] チェックボックスをオンにします。これにより、編集画面のフィールドがアクティブになります。これを行わない場合は、読み取り専用になります。

MCU をオフラインにすると、次のようになります。

- Video Administration はオフラインの MCU に対して会議をスケジュールできません。
- 現在進行中のすべての会議が終了します。Video Administration は、オフラインの MCU の後続の会議を、同じサービスを使用して、十分な使用可能リソースを持つ他の MCU に再スケジュールしようとします。使用可能な代替りの MCU がない場合は、後続のミーティングは失われ、MCU ステータスがオンラインに変更されても復元されません。
- Video Administration は、MCU がオフラインになった時刻から [Modify MCU] 画面の [Offline Up to Date] フィールドに指定された日付までの間に、この MCU にスケジュールされているすべての会議の再スケジュールを試みます。
- MCU に [Offline Permanently] が設定されている場合、Video Administration は将来のすべての会議の再スケジュールを試みます。

選択内容が [MCU] タブの [Status] カラムに表示されます。

ステップ 5 [Advanced] タブで、必要に応じて詳細を編集します。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

変更内容が [MCU] タブのリストに表示されます。

MCU を削除する



注意

MCU を削除した場合、回復することはできません。MCU を削除するか、または MCU をオフラインにすると、進行中のすべての会議が中断されます。さらに、その MCU に対してスケジュールされている将来のすべての会議が再スケジュールされます。再スケジュールが成功するという保証はありません。

ステップ 1 [MCU] タブで、削除する MCU の名前をクリックします。

ステップ 2 [MCU] 画面で [Offline] を選択し、[Permanent] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Delete] をクリックします。

ステップ 4 表示されたメッセージで、[OK] をクリックします。

MCU が [MCU] タブのリストから削除されます。

MCU を検索する

MCU を名前で検索できます。

ステップ 1 [Name] フィールドに、MCU の名前全体または名前の一部を入力します。

ステップ 2 [Search] をクリックします。

MCU が見つかり、MCU の名前と詳細が [MCU] タブのリストに表示されます。

[Connection] カラムの情報は、Video Administration と MCU 間の通信接続が確立されているかどうかを示します。

Gateway タブの使用

登録済みのゲートウェイは [Gateway] タブにリストされます。[Gateway] タブでは、ゲートウェイを監視、追加、削除、および修正できます。

Video Administration は、ゲートウェイを制御することも、ゲートウェイと通信することはありません。Video Administration は、リソース割り当てを決定するためにゲートウェイ セットアップ情報を使用します。ゲートウェイ セットアップ情報が正確であることが重要です。

次の手順を参照してください。

- [ゲートウェイを追加する \(P.4-17\)](#)
- [ゲートウェイを修正する \(P.4-19\)](#)
- [ゲートウェイを削除する \(P.4-19\)](#)
- [ゲートウェイを検索する \(P.4-20\)](#)

ゲートウェイを追加する

ゲートウェイを追加する場合は、Video Administration 内の設定値が実際のゲートウェイ設定と一致している必要があります。次のガイドラインに従うことをお勧めします。

- ゲートウェイに変更を加える場合、Video Administration 内の IVR および DID 番号は維持する。
- スケジュールされたコールまたはアドホック コールが使用できるゲートウェイ ポートを確保するために、キャパシティ情報を維持する。

ステップ 1 [Resource Management] セクションで、[Gateway] タブをクリックします。

ステップ 2 [Add] をクリックします。

[New Gateway] 画面が [Basic] タブ上に開きます。

ステップ 3 必要に応じてフィールドに情報を入力します。

ステップ 4 [Gateway Model] リストから [ViaIP-GW-S40] を選択した場合は、[IMUX] フィールドが表示されません。ネットワークへの ISDN 接続に使用する IMUX サーバを選択します。

ステップ 5 [Registered To] リストから、ゲートウェイを登録するゲートキーパーまたは SIP サーバを選択します。Video Administration で設定されているゾーンプレフィックスの完全なリストが、ゲートキーパーまたは SIP サーバの名前の後ろに表示されます。

- ステップ 6** ゲートウェイ プーリングを有効にするには、IP アドレスを修正するか、他のゲートウェイ IP アドレスを追加します。
- ステップ 7** ゲートウェイがダイヤルイン コールだけをサポートする場合は、**[Dial-In]** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** (オプション) **[Description]** フィールドに、ゲートウェイの説明を入力します。
- ステップ 9** **[International Access code]** フィールドに、国際長距離電話を発信するために必要な数値プレフィックスを入力します。
- ステップ 10** **[Domestic Long Distance Prefix]** フィールドに、同一国内で長距離電話を発信するために必要な数値プレフィックスを入力します。
- ステップ 11** **[Country Code]** フィールドに、ゲートウェイ電話番号の国番号を入力します。Video Administration は、このゲートウェイと異なる国にある端末へのダイヤルアウトがこのゲートウェイで実行されたときに、このプレフィックスを追加します。
- ステップ 12** 必要に応じて、**[Allow Out of Area Calls]** チェックボックスをオンにします。
- [Allow Out of Area Calls] チェックボックスをオンにしない場合、ゲートウェイと同じ市外局番を持つエンドポイントだけがゲートウェイを介して Video Administration に到達できます。また、このチェックボックスがオフで、ゲートウェイ用に予約されたポートを要求する場合は、指定したゲートウェイが追加ポートを提供するために十分なリソースを持っていることを確認する必要があります。
- [Allow Out of Area Calls] チェックボックスをオンにした場合、ゲートウェイは、ゲートウェイの市外局番と異なる市外局番を持つエンドポイントから Video Administration への着信コールを受け入れます。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
- ステップ 13** **[Area Code]** フィールドに、ゲートウェイ電話番号の国内市外局番を入力します。
- ステップ 14** **[Telephone Number]** フィールドに、特定のポートに割り当てる市内電話番号を指定します。
- ステップ 15** **[To Access an Outside Line for Local Calls]** の **[Dial]** フィールドに、市内電話用の外線に直接アクセスしないゲートウェイ用の番号を入力します。
- ステップ 16** **[To Access an Outside Line for Long Distance Calls]** の **[Dial]** フィールドに、長距離電話用の外線に直接アクセスしないゲートウェイ用の番号を入力します。
- ステップ 17** ゲートウェイ サービスを追加または修正するには、**[Add Service]** をクリックします。
- ステップ 18** ゲートウェイ サービスを削除するには、**[Add Service]** をクリックし、**[Delete Service]** をクリックします。
- ステップ 19** **[Bandwidth]** セクションの **[Restricted Mode]** チェックボックスをオンにした場合、**[Kbps]** リストに 56 と表示されます。64 Kbps の倍数の代わりに 56 Kbps の倍数が使用されます。
- ステップ 20** ゲートウェイに他の電話番号を追加するには、**[Add Services]** をクリックし、必要な情報を入力します。

ゲートウェイを修正する

ゲートウェイをオフラインにしない限り、ゲートウェイに対する修正は、サービスプレフィクスおよび帯域幅の追加に限定されます。

-
- ステップ 1** [Gateway] タブで、リストにあるゲートウェイの名前をクリックします。
- [Modify Gateway] 画面が表示されます。
- ステップ 2** ゲートウェイの名前を変更する場合は、新しい名前を [Name] フィールドに入力します。
- ステップ 3** サービスプレフィクスを追加するには、[Add Service] をクリックします。
- ステップ 4** [Modify Gateway] 画面のその他のフィールドを編集する必要がある場合は、[Offline] をクリックします。
- すべてのフィールドがアクティブになります。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
-

ゲートウェイを削除する

-
- ステップ 1** [Gateway] タブで、リストにあるゲートウェイの名前をクリックします。
- [Modify Gateway] 画面が表示されます。
- ステップ 2** [Offline] オプションをクリックします。
- ステップ 3** [Permanently] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [Delete] をクリックします。
- ゲートウェイが削除されます。
- 削除したゲートウェイを使用するようにスケジュールされていた後続のすべての会議は、再スケジュールされます。正常に再スケジュールされた会議ごとに、新しいゲートウェイ情報が主催者および参加者に通知されます。会議をサポートするためのリソースがネットワークに十分でない場合、その会議はキャンセルされ、主催者および参加者にキャンセルが通知されます。
-

ゲートウェイを検索する

ゲートウェイを名前で検索できます。

ステップ 1 [Name] フィールドに、ゲートウェイの名前全体または名前の一部を入力します。

ステップ 2 [Search] をクリックします。

ゲートウェイが見つかったら、ゲートウェイの名前と詳細が [Gateway] タブのリストに表示されます。

[Connection] カラムは、Video Administration がゲートウェイとの通信チャネルを確立したかどうかを示します。

Terminals タブの使用

登録済みの端末は [Terminals] タブにリストされます。[Terminals] タブでは、端末を監視、追加、削除、および修正できます。

端末情報を画面に表示できない場合は、画面下部にある、前に戻る矢印または次に進む矢印をクリックするか、ページ番号をクリックして [Terminal] 画面のページ間を移動します。

使用されている端末の現在の数、および使用可能な端末の総数は [Terminals] タブの下部に表示されます。

次の手順を参照してください。

- 端末を追加する (P.4-20)
- 端末を修正する (P.4-21)
- 端末を削除する (P.4-22)
- 端末を検索する (P.4-22)

端末を追加する

ステップ 1 [Terminals] タブで、[Add] をクリックします。

[Add Terminal] 画面が表示されます。



(注) [Default Users] ボタンは使用しないでください。ユーザは Cisco Unified MeetingPlace Audio Server で設定されています。

ステップ 2 [Name] フィールドに、端末の名前を入力します。

ステップ 3 [Terminal Type] リストから、次のうち該当するオプションを選択します。

- [IP(H.323)]
- [ISDN/PSTN(H.320)]
- [Dual(H.320 and H.323)]

- [IP(SIP)] : このオプションを選択すると、[SIP URL] フィールドに端末名が自動的に表示されます。端末名の後ろには SIP サーバのドメイン名、および SIP サーバのドメイン名に由来する拡張子が続きます。たとえば、< 端末名 >@<SIP サーバ ドメイン名 > (user@domain_name.com) などとなります。
- [Mobile] : 3G 端末または 3G 以外の端末をサポートします。

ステップ 4 [IP Phone number] フィールドに、端末に関連付けられている E.164 IP Phone の番号を入力します。このフィールドは、[Terminal Type] フィールドで [IP(H323)] または [IP(SIP)] を選択した場合にだけ表示されます。

ステップ 5 [Registered To] リストから、端末を登録するゲートキーパーまたは SIP サーバを選択します。



(注) マルチゾーンのダイヤル プランでは、プレフィクスを削除するように設定されていないゲートキーパーまたは SIP サーバに端末を登録する場合、E.164 番号にゾーンプレフィクスを付加する必要があります。

ステップ 6 [Location] リストから、端末の会議室の場所を選択します。端末が組織内の会議室に配置されていない場合は、[None] を選択します。

ステップ 7 [Bandwidth] リストから、該当する値 (Kbps 単位) を選択します。「audio」というデフォルト値は使用しないでください。

ステップ 8 [Meeting Room] リストから、端末が配置されている会議室を選択します。

ステップ 9 端末に関する電子メール通知を受信する場合は、[Notification E-Mail] チェックボックスをオンにし、[Browse] をクリックして電子メール通知用の場所を選択します。

ステップ 10 端末の [Default Time Zone] を変更する場合は、リストから時間帯を選択します。

ステップ 11 [OK] をクリックします。

新しい端末が [Terminals] タブのリストに表示されます。



(注) 新しい端末が [Terminals] タブに追加されると、[Meeting Schedule] セクションの [Invite] タブでその端末が使用できるようになります。

端末を修正する

[Terminals] タブのリストに表示されている端末を修正できます。

ステップ 1 [Terminals] タブで、リストにある端末の名前をクリックします。

ステップ 2 表示された [Modify Terminal] 画面のフィールドに、必要に応じて情報を入力します。



(注) [Modify Terminal] 画面のタブは、[Add Terminal] 画面のタブと同じです。詳細については、[P.4-20 の手順「端末を追加する」](#)を参照してください。

端末を削除する

会議室を [Meeting Rooms] タブのリストから削除できます。

ステップ 1 [Terminals] タブで、リストにある端末の名前をクリックします。

ステップ 2 表示された [Modify Terminals] 画面で、**[Delete]** をクリックします。

端末が [Meeting Rooms] リストから削除されます。

端末を検索する

端末を名前またはダイヤル情報で検索できます。

ステップ 1 端末を検索するには、次のいずれかを実行します。

- [Name] フィールドに、端末の名前全体または名前の一部を入力し、**[Search]** をクリックします。
- 端末を番号で検索するには、[Dialing Info] フィールドに端末の IP 番号または ISDN 電話番号の全体または一部を入力し、**[Search]** をクリックします。



(注) 端末の ISDN 電話番号は、ダッシュやスペースなしで入力する必要があります (ダッシュまたはスペースは、[Terminal Type] フィールドで [ISDN(H320)] または [Dual(H320 and H323)] を選択した場合のみ使用可能です)。



(注) 端末がデュアル端末として設定されている場合、IP 番号と ISDN 番号の両方が表示されず。

検索結果が [Terminal] タブのリストに表示されます。

会議の種類

この項は、組織管理者を対象としています。

[Meeting Types] では、組織が使用できる会議の種類（サービス）に名前を付けて定義できます。会議の種類には、管理者が指定したユーザ用の機能およびオプションを含めます。会議の種類の導入と修正は、ネットワーク全体に適用されます。

マルチポイント会議の種類に使用できるオプションは、MCU のサービス機能に基づきます。ご使用の MCU がサポートするサービスの詳細については、MCU 製造元の関連マニュアルを参照してください。

[Meeting Types] セクションには、次のタブがあります。

- [Active Meeting Types] : このタブでは、会議の種類を追加、無効化、およびアップロードできます。[Status] カラムは、この会議の種類が、スケジュールされた会議で使用されているかどうか、または使用予定であるかどうかを示します。
- [Inactive Meeting Types] : 現在使用予定のない会議の種類。アクティブな会議の種類と同様に、非アクティブな会議の種類も選択可能です。

次の項を参照してください。

- [会議の種類の名前の表示 \(P.4-23\)](#)
- [会議の種類の名前 \(P.4-23\)](#)
- [Active Meeting Type タブの使用 \(P.4-24\)](#)
- [Inactive Meeting Types タブの使用 \(P.4-31\)](#)

会議の種類の名前の表示

会議の種類の名前の表示形式によって、会議の種類についての有用な情報が示されます。

- 後ろにアスタリスク (*) が付いている名前 : Video Administration によって定義された会議の種類ではない MCU の会議の種類
- 後ろにアスタリスク (*) が付いている黒色の太字の名前 : MCU から正常にダウンロードされたか、他の MCU に正常にアップロードされた、現在ユーザに対して使用可能になっている MCU の会議の種類
- 赤色の太字の名前 : MCU からダウンロードされ、Video Administration で修正されたが、MCU にアップロードされておらず、現在どのユーザに対しても使用不可になっている MCU の会議の種類
- 後ろにアスタリスク (*) が付いている赤色の太字の名前 : MCU からダウンロードされたが、すでにネットワークの MCU には存在せず、現在ユーザに対して使用不可になっている MCU の会議の種類

会議の種類の名前

各会議の種類（サービス）には、一意の名前を付ける必要があります。会議の種類に名前を付けずにアップロードしようとする、サービスに名前を付けるように求めるプロンプトが表示されます。

会議の種類の名前は、組織内のユーザにとって意味のあるものにするをお勧めします。

Active Meeting Type タブの使用

[Meeting Types] セクションは、デフォルトで [Active Meeting Types] タブに表示されます。

Video Administration に初めてログインしたときは、会議が [Active Meeting Types] タブに表示されません。

Cisco MCU バージョン 4.x および 5.x と、Cisco Unified Videoconferencing 35xx および 36xx には、事前に設定されたさまざまな会議の種類があります。

[Meeting Types] にアクセスする

ステップ 1 サイドバーメニューで、[Meeting Types] をクリックします。

[Meeting Types] 画面が [Active Meeting Types] タブに表示されます。

次の手順を参照してください。

- [音声とビデオの会議の種類を追加する \(P.4-24\)](#)
- [音声会議の種類を追加する \(P.4-26\)](#)
- [会議の種類を修正する \(P.4-26\)](#)
- [会議の種類をアップロードおよびダウンロードする \(P.4-27\)](#)
- [会議の種類競合を解決する \(P.4-28\)](#)
- [会議の種類を導入する \(P.4-28\)](#)
- [MCU を追加する \(P.4-29\)](#)
- [会議の種類をアップロードする \(P.4-30\)](#)
- [音声のみの会議の種類を定義する \(P.4-30\)](#)
- [会議の種類を無効にする \(P.4-31\)](#)
- [会議の種類を検索する \(P.4-31\)](#)

音声とビデオの会議の種類を追加する

新たに音声とビデオの会議の種類を定義し、[Available Meeting Types] リストに追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Meeting Types] タブで、[Add] をクリックします。

[Meeting Type Details] 画面が表示されます。

画面の上部で、[Audio + Video] オプションがデフォルトで選択されています。

ステップ 2 [Service Prefix] フィールドに、この会議の種類の数値サービスプレフィックスを入力します。このプレフィックスは、会議 ID に付加されます。会議の種類プレフィックスの桁数は、会議にダイヤルインするために必要な桁数に影響します。



(注) マルチポイントサービスのサービスプレフィックスは、対応する MCU サービスのサービスプレフィックスと一致する必要があります。

ステップ 3 [Name] フィールドに、会議の種類の名前を入力します。

ステップ 4 [Description] フィールドに、会議の種類についての有意義な説明を入力します。説明には、参考になる重要な詳細を含めます。

ステップ 5 この会議の種類がビデオ会議用である場合は、[Max Video Layout] フィールドの隣にある **[Change]** ボタンをクリックします。[Select Preferred Video Layout] 画面で、この会議の種類の画面上のレイアウトを選択し、**[OK]** をクリックします。

選択内容が [Max Video Layout] フィールドの横にグラフィックで表示されます。[Max Video Layout] のデフォルトは [Single Participant] です。

ステップ 6 この会議の種類がビデオ会議用である場合は、[Initial Video Layout] フィールドの隣にある **[Change]** ボタンをクリックします。[Select Preferred Video Layout] 画面で、会議開始時の画面上のレイアウトを選択し、**[OK]** をクリックします。

選択内容が [Initial Video Layout] フィールドの横にグラフィックで表示されます。[Initial Video Layout] のデフォルトは [Single Participant] です。もう一つのオプションは [Max Video Layout] の選択です。

ステップ 7 [Bit Rate] リストから、使用可能な最大ビデオ ビット レート（キロバイト単位）を選択します。

- [Symmetric] : 着信ビット レートと発信ビット レートを一致させる場合は、**[Symmetric]** チェックボックスをオンにします。端末は、一致レートにかかわらず、可能な限り高いビット レートで映像を受信します。
- [Forced CP Symmetric] : 会議ですべての端末に対して同じビット レートを使用する場合は、**[Forced CP Symmetric]** チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 レートの一致に使用したビット レートを表示する場合は、**[Rate-Matching]** チェックボックスをオンにします。

ステップ 9 T-120 データ コラボレーション機能を会議の種類に追加するには、**[Enable T-20]** チェックボックスをオンにします。このオプションを使用するには、少なくとも 1 つの MCU が T-120 対応である必要があります。

ステップ 10 [Frame Rate] リストの選択可能なオプション(7、10、15、30)からレート(フレーム/秒)を選択します。

ステップ 11 [Picture Format] リストから形式を選択します。

ステップ 12 [Video Format] リストから形式を選択します。

ステップ 13 [Audio XCoding Priority] リストから必要な優先順位を選択します。

ステップ 14 **[OK]** をクリックします。

新しい会議の種類が [Active Meeting Type] タブのリストに表示されます。

音声会議の種類を追加する

新たに音声会議の種類を定義し、[Available Meeting Types] リストに追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Meeting Types] タブで、[Add] をクリックします。

[Meeting Type Details] 画面が表示されます。

ステップ 2 画面の上部で、[Audio] オプションを選択します。

音声のみの会議に使用できるオプションが表示されます。

ステップ 3 [Service Prefix] フィールドに、この会議の種類の子サービスプレフィックスを入力します。このプレフィックスは、会議の種類 ID に付加されます。会議の種類の子プレフィックスの桁数は、このタイプの会議にダイヤルインするために必要な桁数に影響します。

ステップ 4 [Name] フィールドに、会議の種類の名前を入力します。

ステップ 5 [Description] フィールドに、会議の種類についての有意義な説明を入力します。説明には、参考になる重要な詳細を含めます。

会議の種類を修正する

会議の種類は、現在使用されていない場合に限り修正できます。

スケジュールされた会議に現在使用されている、MCU の会議の種類は、修正しないでください。Cisco MCU または Cisco Unified Videoconferencing ユニットですべての会議の種類 (サービス) を修正し、これらのデバイスから Video Administration に新しい会議の種類の子プレフィックスの値をダウンロードすることをお勧めします。

ステップ 1 修正する会議が現在アクティブな場合は、その会議を無効にします。詳細については、[P.4-31 の手順「会議の種類を無効にする」](#)を参照してください。

ステップ 2 [Active Meeting Types] タブで、修正する会議の種類の名前をクリックします。

ステップ 3 [Meeting Type Details] 画面で、必要に応じてフィールドを編集します。[Meeting Type Details] 画面の情報は、会議の種類に関連付けられたすべての選択および要素を表しています。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

修正された会議の種類が [Active Meeting Types] タブのリストに表示されます。

会議の種類をアップロードおよびダウンロードする

ステップ 1 [Active Meeting Types] タブで、[Upload] をクリックします。

会議の種類をアップロードすると、その会議の種類が [MCU Selection] 画面の [Available MCUs] リストに表示されます。

ステップ 2 必要に応じて、矢印ボタンをクリックして MCU をリスト間で移動します。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

Video Administration は、新しい会議の種類と既存の会議の種類、使用されていない会議の種類、および MCU プレフィクスとの間に競合がないかチェックします。競合がない場合、Video Administration は元の会議の種類を MCU から削除し、修正された会議の種類を追加します。

ステップ 4 競合が検出された場合は、[Download Meeting Type (Services)] 画面で会議の種類の変換を選択します。

ステップ 5 会議の種類の名前を変更するには、[Name] カラムに新しい名前を入力します。

ステップ 6 MCU やそのステータスについての詳細が必要な場合は、[Detail] をクリックします。

ステップ 7 [Download] をクリックして、会議の種類を他のすべての MCU にダウンロードします。

ダウンロード中、Video Administration は、既存の会議の種類がないかすべての MCU をチェックし、会議の種類のリソース要素をアップデートしてから、新しい会議の種類および修正された会議の種類を Video Administration データベースに追加します。



(注) 詳細については、P.4-28 の「[会議の種類をアップロードおよびダウンロードする際の注意点](#)」を参照してください。

ステップ 8 MCU が会議の種類をサポートしない場合は、[Active Meeting Types] タブの [MCUs] カラムのリストから別の MCU サービスを選択します。

Video Administration がネットワークの MCU で新しい会議の種類を検出し、競合およびエラーなしでダウンロードが処理された場合、新しい会議の種類が [Download Meeting Types (Services)] 画面にリストされます。

会議の種類がネットワークの MCU で検出され、競合またはダウンロードに関連したエラーがない場合、新しい会議の種類が [Download Meeting Types (Services)] 画面に表示されます。

ステップ 9 [Use Meeting Type (Service) Definition from] カラムで、会議の種類のカラムに使用する定義を選択します。

[Download Meeting Types (Services)] 画面から選択する定義がない場合、会議の種類をダウンロードすることはできません。この場合は、まず MCU で修正してからダウンロードする必要があります。

ステップ 10 [Name] カラムで、会議の種類の名前を変更できます。デフォルトでは、会議の種類の名前は番号で表されます。

ステップ 11 [OK] をクリックします。

Video Administration が会議の種類を定義を [MCUs Selection] 画面の [Selected MCUs] カラムにあるすべての MCU にアップロードします。

会議の種類をアップロードおよびダウンロードする際の注意点

次の点に注意してください。

- LDAP サーバを使用している場合は、修正した会議の種類が LDAP データベースに追加されます。
- 会議の種類をダウンロード中にエラーまたは競合がある場合は、詳細な警告メッセージが表示されます。
- Video Administration がアップロード中に無効なプレフィクスを検出した場合、Video Administration は何もアクションを実行しません。
- 新しい会議の種類が Video Administration によって検出された場合、[Download log] 画面で新しい会議の種類を作成できます。MCU そのものは、会議の種類の名前を作成できません。
- プレフィクスを削除しない内部ゲートキーパーに MCU が登録されている場合、MCU サービスプレフィクスは内部ゲートキーパープレフィクスで始まる必要があります。

会議の種類を競合を解決する

[Meeting Types (Service) Conflicts] 画面には、個々の MCU と MCU のグループとの間に存在する、会議の種類をプレフィクスの競合が表示されます。また、MCU 上の会議の種類と Video Administration データベース内の会議の種類との間の競合も表示されます。

同じプレフィクスを持つ会議の種類の場合は、1つの [Service Prefix] カラムにまとめられます。

「Invalid Prefix」と表示された場合、MCU 上の会議の種類をプレフィクスは、Video Administration システムにすでに存在する別のプレフィクスの一部であるか、その一部が含まれていることを示しています。

ステップ 1 [MCU] タブをクリックします。

ステップ 2 会議の種類の名前をクリックし、[Modify MCU] 画面で MCU の会議の種類をプレフィクスを変更します。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

ステップ 4 [Meeting Types] 画面でダウンロードプロセスを繰り返します。詳細については、[P.4-27 の手順「会議の種類をアップロードおよびダウンロードする」](#)を参照してください。

会議の種類を導入する

管理者が会議の種類を導入すると、会議の種類を定義の整合性がネットワーク全体で維持されます。

すべての会議の種類を Cisco MCU または Cisco Unified Videoconferencing ユニットで作成することをお勧めします。

一度に複数の会議の種類を導入できます。

ステップ 1 [Meeting Types] の [Active Meeting Types] タブで、導入する会議の種類の隣にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 2 [Download] をクリックします。

適切な MCU が登録されていて、オンラインであれば、会議の種類が Video Administration にダウンロードされます。

ステップ 3 [Active Meeting Types] タブのリストから同じ会議の種類を選択し、[Upload] をクリックします。

[MCU Selection] 画面が表示されます。

ステップ 4 矢印ボタンを使用して、この会議の種類用の MCU を [Available MCUs] リストから選択し、[Selected MCUs] リストに移します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

競合がなければ、会議の種類が他のすべての MCU にアップロードされ、同期されます。

会議の種類が MCU によってサポートされない場合、その MCU にある、サポートされない会議の種類と同じプレフィクスを持つ会議の種類はすべて削除されます。



(注) 会議の種類の競合の詳細については、[P.4-28 の手順「会議の種類の競合を解決する」](#)を参照してください。

MCU を追加する

ステップ 1 [Resource Management] 画面の [MCU] タブで、[Add] をクリックします。

ステップ 2 [New MCU] 画面で、詳細を入力して [OK] をクリックします。



(注) 同期プロセスを中断しないでください。

ステップ 3 これがネットワークに追加する最初の MCU である場合は、この MCU の会議の種類を手動で同期します。

ステップ 4 会議の種類ごとの T.120 ポートの数を増やすには、この会議の種類用の MCU に割り当てられている T.120 ポートを増やします。

ステップ 5 [OK] をクリックして会議の種類をアップデートします。

会議の種類をアップロードする

- ステップ 1** [Meeting Types] の [Active Meeting Types] タブで、アップデートする会議の種類をすべて選択し、[Upload] を選択して、それらの会議の種類を [MCU Selection] 画面に表示します。
- ステップ 2** 画面の左上のセクションに表示されている会議の種類が、アップロードする会議の種類であることを確認します。
- ステップ 3** [Available MCUs] セクションで、使用可能なすべての MCU を選択してアップロードすることをお勧めします。
- ステップ 4** [Right Arrow] をクリックして、MCU を [Selected MCUs] リストに含めます。
- アップロードするすべての会議の種類がリストに表示されます。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。

会議の種類が、使用可能な MCU にアップロードされます。アップロードが完了すると、ファイルがアップデートされ、失敗したアップロードや削除内容が [Upload Log] に表示されます。

音声のみの会議の種類を定義する

会議の種類は、マルチポイントの音声およびマルチポイントの音声とビデオについて作成できません。この手順では、音声のみの会議の種類を定義しています。

- ステップ 1** [Meeting Type Detail] 画面で、[Audio Only] を選択します。

**注意**

会議の種類の前缀は一意である必要があります。会議の種類の前缀は、Video Administration またはネットワークの MCU にすでに存在する他の前缀と競合しないものにしてください。また、会議の種類の前缀には、他の会議の種類の前缀を含めないでください。たとえば、会議の種類の前缀「123」を定義する場合、会議の種類「1」または「12」が存在してはいけません。同様に、会議の種類「1」を作成する場合、会議の種類「12」または「123」が存在してはいけません。詳細については、ご使用の MCU のマニュアルを参照してください。

**注意**

MCU サービス前缀の先頭の数字は、前缀を削除するように設定されているゲートキーパーのゲートキーパー前缀と同じにすることはできません。

会議の種類を無効にする

特定の会議の種類が使用できなくなった場合や不要になった場合、その会議の種類を無効にできます。

ステップ 1 会議の種類の名前の前にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 2 [Deactivate] をクリックします。

ユーザは会議をスケジュールするときに、この会議の種類にアクセスできなくなります。この会議の種類でスケジュールされているセッション中の会議または後続の会議に影響を与えないように、この会議の種類は [Inactive Meeting Types] タブに移されます。

会議の種類を検索する

ステップ 1 [Name] ボックスに、検索する会議の種類の名前全体または名前の一部を入力します。

ステップ 2 [Search] をクリックします。

見つかった会議の種類がリストに表示されます。

Inactive Meeting Types タブの使用

[Meeting Types] セクションの [Inactive Meeting Types] タブをクリックすると、無効な会議の種類がリストが表示されます。このタブでは、無効な会議の種類の詳細を表示したり、使用されなくなった会議の種類を削除したりできます。

[Inactive Meeting Types] タブには次の情報が表示されます。

- [Name] : 指定した会議の種類の名前。
- [Description] : 指定した会議グループの説明。
- [Prefix] : マルチポイント サービスの会議の種類の前缀。
- [In Use] : 会議の種類ステータス。セッション中の会議または後続の会議でこの会議の種類が使用されている場合は「Yes」と表示されます。セッション中の会議または後続の会議にこの会議の種類が割り当てられていない場合は「No」と表示されます。

無効な会議の種類を削除する

[In Use] 設定で、指定した会議の種類が後続の会議またはセッション中の会議によって使用されていないことが示されている場合、会議の種類を削除できます。

ステップ 1 [Inactive Meeting Types] タブのリストから、1つまたは複数の会議の種類を選択します。

ステップ 2 [Clear Obsolete] をクリックして、これらの会議の種類を Video Administration および MCU から削除します。
